

湯本で学生が研修

若い力で温泉街誘客へ

昭和女子大「活性化プロジェクト」



浅倉支社長（手前右）の話を聞くプロジェクトのメンバー

昭和女子大（東京都）現代ビジネス研究所の「いわき湯本温泉活性化プロジェクト」に参加している学生七人は四、五の西日、いわき市のいわき湯本温泉を訪れ、研修に臨んだ。プロジェクトは東日本大震災と東京電力福島第一原発事故からの復興の道を歩む湯本

の大嶋淳俊教授が主導し、動画などを導入した「デジタルガイドブック」と、旅行プランの作成に取り組んでいる。

今回は同温泉旅館協同組合の草野昭男理事長、両情の宿新つた女将（おかみ）の若松佐代子さん、福島民報社いわき支社の浅倉哲也支社長らからそれぞれの立場で見た温泉の魅力や復興状況などについて話を聞いた。地元飲食店や土産屋、温泉神社も見学した。参加した星美涼さん（三年）は「事前に調べた情報と、訪れて感じた印象は違った。実際に感じた良い所をガイドブックやプランに詰め込めるようにしたい」と話した。